

アルファルファ「タチワカバ」「キタワカバ」の奨励品種の編入

(畜試・草地部)

1. 背景とねらい

現在、本県におけるアルファルファの奨励品種はナツワカバ、サラナックの2品種であるが、その適応地域は永続性の点から限定されているので、高標高地を含めた全県下に適する品種が求められている。そこで、本県に適すると認められたタチワカバ、キタワカバの2品種を奨励品種に編入する。

2. 技術内容

1) 来歴及びひんしゅ特性

品種	登録番号	来歴	育成地	早晚性	開花始期	形態上・生態上の特徴	耐病性	利用目的	期待収量	
									生草 kg/ 10a	乾物 kg/ 10a
タチワカバ	アルファルファ農林2号	暖地イタリアの多収品種とフランスの耐倒伏性品種を母材として育成。	愛知農試	中生	6月5日	草型は直立、花色は淡紫色の団体の出現頻度が高い。草丈は高いが茎が太く耐倒伏性にすぐれている。刈取後の再生が早く、多収で永続性に優れている。	強	サイレージ	6000	1200
キタワカバ	アルファルファ農林3号	北海道並びに北東北生態型集団とデュピ一等導入品種とを合成して選抜育成。	北海道農試	早生	6月4日	草型は直立型に属するが、開張型を示し、花色は淡紫色。茎は細く、草丈はやや高い。早春の萌芽性、各番草の再生も良好で、特に越冬性、永続性に優れている。	強	サイレージ	6000	1200

### 3. 選定の理由

- 1) タチワカバ: 多収で永続性に優れている。茎が太く耐倒伏性に優れ、機械刈に適している。
- 2) キタワカバ: 冬枯れ、雪腐れ病等耐冬性似優れ、早春の萌芽性、刈取後の再生も良好であり、特に高標高の安定栽培に適している。

### 4. 普及上の留意点

- 1) 株の定着と永続性を高めるために、適期播種に努め、年内生育を促進して越冬に必要な生育を確保する。播種当年を含めた刈取管理法(62年度参考事項)について充分留意する。
- 2) 高標高地では、圃場立地条件や年次により凍害が多発するので、排水良好な圃場、防風林等風触対策がとれる圃場を選定するとともに、刈取の危険な期間以降も無刈取管理とする。
- 3) キタワカバは草型が開張型を示すため多雨条件で倒伏しやすいので、オーチャードグラスとの混播等により軽減対策をはかるように留意する。

### 5. 関連試験課題

飼料作物優良品種の選定(昭和60~63年)

### 6. 参考資料

- 1) 昭和57~62年度岩手畜試成績概要書並びに普及奨励事項・指導上の参考事項
- 2) 昭和56年度農林登録候補(アルファルファ「愛甲11号」)に関する試験成績

表 利用年次別収量

場 所		滝 沢 (標高250m)					外 山 (標高720m)				
		ソ	ア	サ	ナ	カ	ソ	ア	サ	ナ	カ
品 種 (標準品種)		(標)					(標)				
生 草 重 kg/a	播種年	113	106	109	77	88	79	66	76	76	67
	2年次	732	731	693	750	781	560	595	551	630	640
	3年次	671	715	721	818	888	527	448	475	488	546
	4年次	619	703	822	854	839	444	496	328	472	518
	合 計	2135	2255	2345	2499	2590	1610	1605	1430	1666	1771
乾 物 重 kg/a	播種年	31 (107)	30 (103)	29 (100)	24 (83)	26 (90)	20 (118)	17 (100)	19 (112)	20 (118)	18 (106)
	2年次	142 (103)	140 (101)	138 (100)	154 (116)	158 (104)	100 (101)	99 (100)	92 (93)	108 (109)	116 (117)
	3年次	136 (98)	142 (102)	139 (100)	160 (115)	157 (113)	97 (102)	95 (100)	82 (86)	93 (98)	103 (108)
	4年次	100 (71)	119 (84)	141 (100)	151 (107)	142 (101)	84 (88)	96 (100)	66 (69)	97 (101)	98 (102)
	合 計	409 (91)	431 (96)	447 (100)	489 (109)	483 (108)	301 (81)	307 (100)	259 (84)	318 (104)	335 (109)

刈取回数 滝沢 4回(播種年1回) 外山 3回(播種年1回)